

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】令和2年3月19日(2020.3.19)

【公開番号】特開2019-13871(P2019-13871A)

【公開日】平成31年1月31日(2019.1.31)

【年通号数】公開・登録公報2019-004

【出願番号】特願2017-131884(P2017-131884)

【国際特許分類】

B 01 J 23/89 (2006.01)

B 01 D 53/86 (2006.01)

B 01 J 37/08 (2006.01)

B 01 J 37/00 (2006.01)

【F I】

B 01 J 23/89 A

B 01 D 53/86 2 8 0

B 01 J 37/08

B 01 J 37/00 H

【手続補正書】

【提出日】令和2年2月3日(2020.2.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

VOCを含有するガス燃焼処理用の、白金をコバルト・セリウム系複合酸化物上に直接担持させたVOC処理用触媒であって、

触媒全体の質量に占めるコバルト・セリウム系複合酸化物の質量割合が80%以上であり、コバルト・セリウム系複合酸化物の質量に占める白金の含有量をa(単位:質量%)とすると、0 < a < 20の範囲であることを特徴とするVOC処理用触媒。

【請求項2】

前記白金は、分散剤で保護された白金コロイドの溶液を原料とする特徴とする請求項1に記載のVOC処理用触媒。

【請求項3】

前記触媒は、バインダー成分とともに成型してなる、或いは所望形状のステンレス鋼、鉄鋼、銅合金、アルミニウム合金、及びセラミックス材の何れか1つの担体に担持されていることを特徴とする請求項1または2記載のVOC処理用触媒。

【請求項4】

請求項1ないし3いずれか記載のVOC処理用触媒の製造方法であって、前記コバルト・セリウム系複合酸化物は、コバルトとセリウムの炭酸塩を前駆体とする化合物を空气中300~500で焼成し、その後粉碎処理して作製することを特徴とするVOC処理用触媒の製造方法。

【請求項5】

請求項1ないし3いずれか記載のVOC処理用触媒を用いたVOC処理方法であって、運転温度が、100~300であることを特徴とするVOC処理方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

<2>触媒の性能評価

トルエン及び酢酸エチルに対するCO₂生成率(燃焼率)の温度依存性 図2のD(トルエン、白金(2%、塩化白金酸)担持コバルト・セリウム複合酸化物)、図3のD(酢酸エチル、白金(2%、塩化白金酸)担持コバルト・セリウム複合酸化物)

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

<2>触媒の性能評価

トルエン及び酢酸エチルに対するCO₂生成率(燃焼率)の温度依存性 図2のF(トルエン、市販白金担持アルミナ)、図3のF(酢酸エチル、市販白金担持アルミナ)

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】

